

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月1日(木)

《からし種一粒ほどの信仰があれば ～諦めないで望みましょう～》

私たちは普通、自分の常識、自分の納得できる論理で全てを判断します。そして、可能性があるかないかも判断してしまいます。可能性があるなら何とか頑張ってみるけれど、全然可能性が見えなければ、諦めてしまいます。それが、普通の私たちの考え方です。

しかし今日の福音(ルカ 5:1-11)には、私たちが考えるべきではないかということが書かれています。ペトロとその仲間たちは、魚をとる専門家です。ずっとそういう仕事をしてきたから、魚については自慢するくらいの知識があったのでしょ。そこへ、魚や漁については全然知らないある先生が現れます。そして集まった人々にいろいろ説教した後、とんでもない話を持ちかけます。「漕ぎだしてあの辺りに網を降ろしなさい。」と。ペトロは、「私たちは夜通し苦労して漁をしましたが、何もとれませんでした。」と自分の考えを伝えます。しかしその後、「先生がおっしゃったとおりにしてみます。」と応えます。そして網を降ろしてみると、おびたしい魚がとれて、網が破れそうになります。その光景を見たペトロは、恐れて、イエス様の足元にひざまずき、「どうか私から離れてください。」と言います。

さあ、先ずここまでの話を考えてみましょう。ペトロの常識、体験、今まで築いたいろいろな知識によると、これは魚がとれない場合です。その時イエス様から、「網を降ろしてみなさい。」と言われます。そしてその結果、考えられなかった、想像さえ出来なかったおびたしい魚がとれたのです。これは、信仰心を深める一つの鍵になる話だと私は思います。

私たちには、「どんなに懇切に願ってもこれは無理だろう」と思うことがあります。たとえば、病院からの説明で、これはもう癒されないのだろう、と考えることがあります。そのように、あらかじめ諦めてしまうことがたくさんあります。しかし、信仰とはそういうものではありません。イエス様は、少し極端な言い方をなさっていることがあります。「もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じたら、そのとおりになる。」(マタイ 17:20)からし種のように小さな信仰だけでもあれば、望むものが全て叶えられるとおっしゃっているのです。そのような話を聖書のあちこちでおっしゃっています。その話を聞いてはいても、私たちにはそれが身に付くくらいの信仰がないのではないのでしょうか。

聖書のあちこちに書かれている癒しの奇跡が行われた場面では、イエス様はいつも同じことをおっしゃっています。「私の能力であなたを癒した」とは一言もおっしゃっていません。いつも「あなたの信仰があなたを救った」とおっしゃっています。私たちも論理的にはその言葉が分かっています。しかし、そのようなメッセージに完全にゆだねる心はなかなか生じません。

ある意味では、がっかりすることも私たちにとっては罪になるのかもしれない。今まで信じて

来たイエス様に頼っていない証拠かもしれません。辛いことがあった時こそ、「これにも何にかの意味があるのだろう。み旨があるのだろう。」と思い、「私はあなたを信じます。あなたは、私が望んでいることを誰よりもよくご存知です。だから、私を救ってくださいと強く信じます。」という心が必要なのです。もし不安な心があるならば、その不安をなくそうとする自分との闘いが何よりも必要だと思います。

これから、皆様の誰にもこのような不安が訪れて来ます。その時、今の話を思い出してください。信じてみてください。イエス様が自分に一番ふさわしい、一番よい道を準備してくださったことを信じましょう。

もう一つ面白いことがあります。今日の福音では、おびたしい魚がとれ、ペトロは横にある舟の人々に合図を送って、一緒にそれを全部陸に運びました。そしてその後どうしましたか。全部捨ててイエス様について行ったと書かれています。どうしてでしょうか。彼らにとっては、魚をとることが一番大きい目的でした。彼らの生きる意味は魚をとることでした。ところが、とれた魚がたくさん目の前にあるにもかかわらず、全て捨ててついて行ったのです。つまり、“今までは魚が全てだと思っていたのに、それ以上に大事なことを見つけた”ということです。今まで、生きるために一番必要だと思っていたことより、もっと大事なことが目の前に見えたのです。それで全てを捨ててついて行ったのです。

私たちにもこのように要求されることが起こるかもしれません。その時、はっきり決断なさってください。私にとって一番必要なものは何なのか、それを意識しながら進んで行くのが私たちの信仰の道ではないかと思います。もちろん難しいです。しかし、より善いものを選んでください。善いものを選ぼうとする人が、知恵がある者と言われるのです。しかし私たちの実際の暮らしを見ますと、善いものであるのをわかりながらも善くないものを選んで、悩んでいる姿がよく見られるのではないかと思います。

ありがとうございました。